

2019年 月刊「建築技術」企画案

株式会社建築技術
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 3-10-4 千代田ビル 4階
TEL 03-3222-5951 FAX 03-3222-5957

1月号 「わかっているつもりだけの換気」

[監修：南 雄三（住宅技術評論家）＋田島昌樹（高知工科大学工学部社会システム工学科准教授）]

原稿締切日：2018年11月下旬 雑誌発売日：2018年12月17日

今、新築住宅の1割をZEHが占める中で、換気の省エネに対する関心が高まっている。換気の関心が高まることで建物の気密性にも興味が湧き、メンテナンスを怠れば換気の意味を失うことにも目が向く。熱交換換気なのか3種換気なのか、建物の気密性はどれほど必要なのか、メンテナンスにどう対応するのかなど、本特集は換気に関する基本知識を抑え、研究成果を裏付けにした情報を提供する。

2月号 「設計者が知るべき木造建築物の腐朽・蟻害対策の勘所」

[監修：中島正夫（関東学院大学教授）]

原稿締切日：2018年12月下旬 雑誌発売日：2019年1月17日

国内森林資源の有効利用という観点から、中大規模木造建築物が注目を集めている。一方で、設計段階での配慮不足により、竣工後数年で木材が腐るなど、木材の耐久性に関する知識が一般に普及していないのも事実である。本特集では、木造建築物の腐朽・蟻害対策に着目し、腐朽・蟻害の基本と設計を行ううえで配慮すべき事項を中心に解説し、具体的な設計事例を通して実際の納まりや設計上の注意点を解説する。

3月号 「鉄骨造の施工管理力UP術」

[監修：田中 剛（神戸大学大学院教授）、協力：日本建設業連合会建築本部施工部会]

原稿締切日：2019年1月下旬 雑誌発売日：2019年2月17日

鋼構造建築物の施工が増えており、建物は大きい規模にシフトしつつあるのが現状で、それに伴い材料にも変化がみられる。そのような状況下で、鋼構造建築物の施工の基本を知らない現場実務者が多い。本特集では、鋼構造建築物の施工で現場実務者が知っておいてほしいことを、施工手順に沿った工程ごとに、基本とポイント、ケーススタディも含めて解説する。現場実務者が、鋼構造建築物の施工管理のノウハウを取得できる特集とする。

4月号 「配筋から読み解く断面設計」

[監修：大塚秀三（ものづくり大学教授）＋中田善久（日本大学理工学部教授）＋井上芳生（INO 建築構造研究室）]

原稿締切日：2019年2月下旬 雑誌発売日：2019年3月17日

近年特に配筋が過密化・太径化している現在では、構造設計の段階から施工を踏まえてより詳細に配筋を検討する必要がある。本特集では、上記の状況を鑑み、RC造の断面設計を行っていくうえでの配筋の役割や配筋を設計する際の注意点を解説する。

5月号 「設備計画の建築計画への活かし方」

[監修：野部達夫（工学院大学教授）]

原稿締切日：2019年3月下旬 雑誌発売日：2019年4月17日

非住宅建築物の断熱義務化ならびに住宅の断熱義務化と、時代は省エネに傾いている。また非住宅建築物では、維持保全の観点からランニングコストにも関心が高まっている。このような需要に対応しているのが、設備設計者であり、環境設計者である。しかしながら、設計プランがある程度固まってからでは設備設計者や環境設計者との調整を行うことは難しい。本特集では、建築設計者や構造設計者が、設備計画の外皮設計、天井放射冷却、設備スペースの有効面積などの基本事項を知悉することにより、建築設計や構造設計に有益な情報を提供する。

6月号 「改正 RC 構造計算規準の早わかり」

[監修：市之瀬敏勝（名古屋工業大学教授）]

原稿締切日：2019年4月下旬 雑誌発売日：2019年5月17日

2018年末に、日本建築学会の『鉄筋コンクリート構造計算規準』が改定されたことを受け、講習会が全国の9会場で開催され、追加講習会も開催される予定である。今回の改定内容に関する関心度が高いと想定される。新たに追加された事項の解説を行う。改定の裏付けとなる実験データも含めて解説する。改定内容を周知することの一助になることを期待したい。

特集テーマ、監修者、掲載号は、変更になることもあります。

2019年 月刊「建築技術」企画案

株式会社建築技術
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 3-10-4 千代田ビル 4階
TEL 03-3222-5951 FAX 03-3222-5957

7月号 「総合図を熟知する勘所」

[監修：浦江真人（東洋大学教授）]

原稿締切日：2019年5月下旬 雑誌発売日：2019年6月17日

3DCADやBIMの進展により、立体的に建物の仕組みを視覚的にできるようになり施工現場では活用されている。しかし、二次元の総合図に何が書き込まれているのか、または何を読み取らなければならないのかなどを、理解しなくてもよいのだろうか。若手施工技術者の現場管理や現場での対応力の低下が問題視され、どのように対処していくかが喫緊の課題になっている。施工の合理化や短工事などに関連する土工事、素材の選択、構工法の選択、施工納まりなどを、総合図からどのように読み解いていくかを解説する。

8月号 「混構造による中大規模木造建築物の設計」

[監修：大橋好光（東京都市大学教授）]

原稿締切日：2019年6月下旬 雑誌発売日：2019年7月15日

木造の超高層ビル構想が発表されるなど、木造建築物の大型化が着実に進展している。一方で、純木造ではなく適材適所に木を使う混構造による建築物の木質化が今後の主流になっていくと考えられる。また、木造建築物の大型化といっても、背の高い建物、平面的に広い建物など、パターンが別れる。本特集では、木造と他構造との混構造建築物に関する構造設計時の注意点に加え、パターン別の中大規模木造建築の構造設計上のポイントを解説する。

9月号 「BIMの建築設計への活用法」

[監修：志手一哉（芝浦工業大学教授）]

原稿締切日：2019年7月下旬 雑誌発売日：2019年8月17日

設計段階、施工段階に関わらずBIMの使用が活発化してきている。一方で、実際にBIMモデルを扱える実務者があまり多くないというのも実体ではないだろうか。本特集では、設計段階におけるBIMの活用に着目し、BIMモデルの構築などに関わる実務者が「何を」行っているのかを解説する。加えて、意匠・構造・設備の各段階におけるBIMとその他ソフトウェアの関係などを示し、現在におけるBIMの実態を考察する。

10月号 「建築基礎構造設計指針の早わかり」

[監修：時松修治（東京工業大学准教授）]

原稿締切日：2019年8月下旬 雑誌発売日：2019年9月17日

2018年の杭基礎特集では、既存杭・地下構造物への対処法や廃棄物処理法上の取り扱いなど、現在実務でよく問題になる点を取り上げた。一方、本特集では2019年9月頃に発表予定の建築基礎構造設計指針の改定ポイントの解説を中心に、今後広がりを見せるであろう杭の2次設計を行う際に必要な知識を解説する。本特集を通して、多くの構造設計が杭基礎に関心を持ってくれることを期待する。

11月号 「中大規模木造建築物の防・耐火基準の改正」

[監修：河野 守（東京理科大学教授）＋萩原一郎（東京理科大学教授）]

原稿締切日：2019年9月下旬 雑誌発売日：2019年10月17日

建築物の安全性確保や、既存建築物ストックの活用、木造建築物の整備の推進など、規制を見直した基準改正が行われる。防・耐火基準改正の施行後に、改正前の基準下での設計と比べて、何ができるようになったのか。中大規模木造の構造設計を行ううえで防・耐火設計で何に気を付ければよいか。また基準改正後に、設計で問題として残ったことが何かを、事例と合わせて解説する。

12月号 「今、構造設計に必要なものを探る」

[監修：腰原幹雄（東京大学生産技術研究所教授）]

原稿締切日：2019年10月下旬 雑誌発売日：2019年11月17日

1964年のオリンピックや1970年の万博では多くの構造設計者が活躍し、躍動感のある建築物が数多く建設された。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、急ピッチでオリンピック会場が建設されている。しかしながら、注目を集める施設設計に構造設計者の関与が希薄になっている。構造設計が注目を集めた60年代や70年代の設計思想、構造システム、構造フォルム、素材の使い方など、建築物を題材に振り返りながら、今後、構造設計者が主体的に設計活動を展開するために、何が必要なかを再考する。

特集テーマ、監修者、掲載号は、変更になることもあります。